OA誌が増えたら？
変わることと変わらないこと

Continuity and Change in an *Increasingly OA journal*

小野　亘（一橋大学附属図書館）
Wataru ONO (Hitotsubashi University Library)

第6回 SPARC Japan セミナー2012
「オープンアクセスによって図書館業務はどう変わるのか～図書館のためのオープンアクセス講座～」

一橋大学附属図書館
HITOTSUBASHI UNIVERSITY LIBRARY

私の立ち位置

- 一橋大学附属図書館
  - 社会科学の単科大学
  - 中規模大学：　FTE5,000強
  - 日本語で日本について研究している研究者も多い
  - EJパッケージはE社SDのみ

∴OA誌の最先端動向からは、ちょっと距離がある。

OA誌が増えても変わらないこと

OA誌の限界を補完するために

- Toll AccessのEJや冊子のカレント契約は維持せざるを得ない
  - Embargoがある：　やっぱりカレントに読みたい
  - 古いところはOA化されにくい：　Backfileが必要
  - 著者版なら読める：　やはり出版社版が読みたい

OA誌が増えて変わること

図書館予算の“リダイレクト”

- 資料費（購読費）や製本費の多くの部分がOAの維持に転換される
  - 論文処理料金（Article Processing Charge；APC）
  - デポジットシステム（リポジトリなど）の維持費

- 図書館はOAインフラの維持・発展に中心的に関われるか？

研究大学の支出は増える

- 購読料という形で広く薄く負担されていたものが、APCという形で狭く厚い負担になる
  - 研究活動が活発なほど支出が増える
- 大学としては、その分「評価」という見返りが増えればよいが
  - 結果としての資金獲得という“ゲームのルール”に図書館が参加できるか？

契約がない

- （読むだけなら）契約というトリガーがないので、今何が見られるか分からない。
  - もろもろの異動・インシデント等の連絡がない
  - OA誌≠フリー誌、ではあるが、管理面では似たような状況？

目録はとらない？

- ナレッジベースとディスカバリ
- 個々の図書館での目録作業ではなく、中央集約的な作業が必要
  - ただし、人（国、NII、NDL・・・）まかせでは進まない
  - JJR Naviのメンテナンス体制の整備が必要？
  - NIIのERDBプロジェクトに期待

ILLはなくなる？

- 最後の手段としてのILLや他機関でのWalk in Use は残る
  - 激減する
  - 互恵主義ではなくドキュメントサプライセンター化するかも。

OA誌が経営破綻したら？

- そのタイトルは購読モデルに戻る？
- 過去のOA発行分はOAを維持したい
  - バックアップ/保存は図書館界として取り組む
  - *CLOCKSS など*